

三翠化学

(題字は稲川先生)

第 74 号

令和7年11月14日 発行
三 翠 化 学 会
津市栗真町屋町1577
三重大学大学院生物資源学研究所内
電話 / (059) 232 - 1211
振替 / 00890 - 1 - 59345
印刷 / 株式会社 ある む
TEL (052) 332-0861 大 8 長谷川 正一

令和六年度総会報告

三翠化学会会長 木村幸信 (大27)

今年は例年にも増して酷暑が続きました。皆様におかれましては暑さにも負けず乗り切れ、ますますご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会活動にご理解、ご協力賜り誠にありがとうございます。

令和六年度総会は、九月七日(土)三重大学生物資源学部二六室にて開催されました。出席者はあいにく二名と低調でした。日程が合わずご出席いただけなかった方も多数いらっしゃると存じますが、総会そのものをもっと魅力的なものに改善していく必要を痛感いたしました。反省しております。

勝崎副会長司会のもと木村会長挨拶に続き、議長に中北氏を選出し、令和五年度事業報告(西尾幹事)、会計報告(近藤幹事)・監査報告(梅川監事)が行われました。次いで、令和六年度事業計画(西尾幹事)、予算(近藤幹事)が提案され、満場一致で承認されました。

本年度総会ではその他の議案として、三翠化学会設立五〇周年記念事業の締めくくりである会章(ロゴマーク)制定のデザイン採用案を正式にデジタルデーター化して会で所有すること

が提案され、満場一致で承認されました。

その他総会の場を借り課題の提起があり協議されました。以下は、(特に注釈のない限り)協議事項であり、決議事項ではありません。

◎三翠化学会役員改選にあたって
・メール通信可能な方から役員選出する案の協議
◎会員数の増加・会の活性化目的で

・クラス会補助

クラス会実施報告を会報「三翠化学」に投稿

することを条件とし、一万円を補助する案の協議

・学生イベントへの補助

(学生への同窓会存在アピール目的)

二年生

分属決定時の新歓

三万円 / 年

三年生

研究室決定前の懇親会

三万円 / 年

(注)学生イベントへの補助

助は現在すでに実施しています。

・会報「三翠化学」への投稿促進案の協議

(例)職場(企業・団体)状況の紹介 会員相互の情報交換

学生への社会人イメージ提示など

少しでも広く会員の方のご意見を承りたく、総会の場に協議事項を持ち込んだため、決議事項と紛らわしくなってしまうことお許しください。

会章(ロゴマーク)採用に関して

会章(ロゴマーク)決定
昨年度総会で三翠化学会の会章(ロゴマーク)が決定しました。

デザインのデジタルデーター化などの工程を経ました

ので、会員の皆様にご披露いたします。なお、デジタルデーター化したデザインに

関しては、三翠化学会のホームページにも公開しますので、必要に応じてご利用

用ください。本紙ではモノクロデザインのみ掲載していますが、カラー版も制定されていますので、同時に公開いたします。

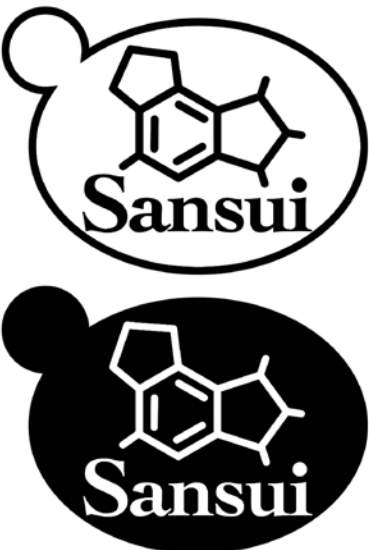
いていることですが、本章デザイン

の著作権は三翠化学会にあります。

会員の皆様の使用は原則自由ですが、三翠化学会を象徴する目的以外での使用および

デザインを改変しての使用はお控え

ください。



生命機能化学講座の紹介

生命機能化学講座主任

竹林慎一郎 (大46)

三翠化学会の皆様には、日頃より温かいご支援とご声援を賜り、心より御礼申し上げます。令和七年度生が大学院に進学しており、自ら課題を見つけ、その解決に取り組む高度な知識と技術を備えた人材が、当講座から数多く育つてきております。実際に、在学中から学会等で研究発表を行い、表彰される当講座の学生も少なくありません(ここでは書ききれないほど多くの学生が表彰されています)。学生の主体的な頑張りに加え、指導教員による熱心なサポートが実を結んだものと考えております。

令和七年度の当講座における学生数は、四年生四六名、大学院生五六名(うち修士一年生が二七名、修士二年生が二六名、博士学生が三名)となっております。一〇月から研究室に配属された三年生も加えると、約一五〇名の学生が当講座の

会章ロゴマーク採用に関して

この度会章(ロゴマーク)に、私のデザインが採用されることとなりました。歴史ある本会の会章に選定されたことは大変名誉なこと

で身に余る光栄なのですが、実のところこのような結果になったこと、少々戸惑っています。と申します

のも、今回採用の作品は、会章デザイン募集において応募作が集まらなかった場合

に備え、事務局側でも準備しておこうと考えたサブ

メンバー的なデザインだったからです。

本章デザイン募集の件では、すでにご案内の通り

二三の応募作があり、その時点で心配していた「応募

作なし」の非常事態は回避されたのですが、本作も

応募作の一つとして平等に(もちろん作者名を伏せて)取り扱った結果、役員

コロナ禍で、学生も教員も多くの困難を抱えていた時期が嘘のように、現在は教育研究の現場には従来の日常が戻ってきております。正確には、コロナ禍で生じたオンライン活用などの変化を必要に応じて取り入れるなど、自由度が増したポストコロナ時代の日常へと移行したと言える

のかもしれない。講座のスポーツ大会や卒業・修了記念パーティーなどの行事は、コロナ禍でしばらく中断されておりましたが、現在は再開されており、現在

講室内のつながりをつくっていく上で、このような対面の交流が重要であること

を改めて実感しております。

現在、当講座は以下の一二教育研究分野、一七名

は、数回の改組で、組織

(学部・学科・コースなど)

を短い言葉でまとめて定義づけられないという悩みを持っています。それらをイ

メージ的に集約できる旗印となればよいと考えて作り

しました。

周囲の突起のある楕円は

出芽中の酵母をイメージし、中の模様は化学構造式

をイメージしています。「化学と生物」をひっくり返めた

デザインとなり、また全体像を見ると、歩みは速くないが万年の寿命を持つという

亀を連想させます。ゆっくりと歩み続けるイメージです。

本章デザインに込めた作者の思い

三翠化学会は、三重大大学の農芸化学分野卒業生の同窓会と言えるのですが、実

の教員で構成されております。令和七年一月には、ブー

ンバーム・ラウイン先生が分子細胞生物学教育研究分野の助教として着任されました。当講座における初の

外国人教員として、グローバル化が急速に進む大学教育の現場に、新しい風を吹き

込んでくれるものと期待しております。また、令和

七年四月には、食品化学教育研究分野の磯野直人先生

が教授に昇任されました。一方で、令和七年三月には、

食品発酵学教育研究分野の菊田修一先生が定年により

ご退職されました。現在の当講座を構成する教育研究

分野および所属教員は、次の通りです。

○分子細胞生物学
竹林慎一郎 教授
ブーバーム・ラウイン 助教

○分子生物情報学
末原憲一郎 教授
三宅英雄 准教授

○生理活性化学
稲垣 稔 教授

○創薬化学
増田裕一 准教授

○生物機能化学
勝崎裕隆 准教授
岡咲洋三 准教授

○生物制御化学
寺西克倫 教授

○食品生物情報工学
橋本 篤 教授

○食品化学
磯野直人 教授
三島 隆 准教授

○微生物遺伝学
木村哲哉 教授

○國武絵美 准教授

○栄養化学
西尾昌洋 准教授
栗谷健志 助教

○食品発酵学
梅川碧里 准教授

今後も講座教員が協力しながら、社会の変化に対応した教育、研究に取り組んでまいります。三翠化学会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

元三翠化学会会長 福田映(大1)さん
追悼文 益川 博 (大30)

私が現在勤めている会社(井村屋)の大先輩でもあり、農芸化学科の大先輩である福田映さんが令和五年(二〇二三年)一〇月一日に九三歳でお亡くなりになりました。福田さんは昭和

二八年(一九五三年)三月に農芸化学科を卒業され一期生の先輩です。昭和二八年(一九五三年)に井村屋製菓株式会社に入社、平成三年(一九九一年)には取締役副社長に就任され、現在の井村屋の基礎を築いてくれた方です。中でも昭和四八年(一九七三年)、開発担当をされてお

り、現在の井村屋の主力商品である「あずきバー」を

会章として少々バツプに

すぎるかも? という不安

はありました。歴史や伝統

といった威厳をあまり感じ

られないビジュアルです。

これを良しとするか否かは三翠化学会員の気持ち

スタンスのあり方ではない

かと聞き直っております。

令和7年度三翠化学会総会のご案内

記

日 時: 令和7年12月6日(土)
受付開始: 11時00分
総 会: 11時30分~12時00分
懇 親 会: 12時15分~14時15分
会 場: 総会
生物資源学部大会議室
懇親会
三重大学生協 パセオ

懇親会会費: 4,000円
出欠は同封のハガキか以下のサイトからお願いしま



https://forms.gle/cFkDIWnezRG2GsU97

第一八回三翠化学会 関東支部総会・講演会・懇親会を開催

関東支部支部長 吉田吉明（大18）

第一八回三翠化学会関東支部総会・講演会・懇親会を、令和七年四月一三日（日）に日本橋室町の三重テラス二階のコミュニティスペースで開催しました。

支部総会は二年に一度、その間に交流会を開催しています。今年の参加者は来賓、講師を含めて二四名で、昨年の交流会の二名を超える参加者で開催することができました。講演会の講師の菊田先生の教え子で今年卒業したばかりの西野寿々香さんに参加頂き花を添えました。菊田先生、菅原さん（大26回）の講演の内容、懇親会も大いに盛り上がり、今年も成功裏に開催することができたと思っています。以下、その概要について報告します。

東海副支部長（大19回）の総合同司会のもと、吉田支部長（大18回）の開会挨拶のあと、来賓として、本部の木村会長に情勢報告を含めて挨拶を頂き、三翠化学会の会章を検討してきた結果、酵母の中に化学式の亀の甲とSANSUIが配置されたデザインが紹介され、参加者皆さんの拍手で賛意を表しました。

その後、総会に入り、東海副支部長が議長をつとめ、議案の審議を行いました。第一号議案は吉田支部長から令和五年四月、令和七年三月までの支部活動の概略の報告を行ない、支部委員会は五回開催しましたが、主な審議内容は、交流会と支部総会の講演会、懇親会などの企画や進め方の検討が中心の内容を紹介しました。次いで、第二号議案の会計報告を平田副支部長（大20回）から、併せて中島監事（大22回）から監査報告がありました。第三号議案の任期満了に伴う役員改選（留任）の件も含めて、いずれの議案も了承されました。

恒例の講演会は、大学から三月に退官されたばかりの菊田修一先生にお出で頂き、「三重大学生物資源学部の現況と教員生活を振り返って」と題して、講演を頂きました。大学の現況を写真で紹介して頂いた後、先生の学生時代の研究テーマから始まり、大関（柳）研究所に就職し、第一種放射線取扱主任資格の取得が今後の進路に影響を与え、パス



ツール研究所やカリフォルニア大学への留学を経験された。アイソトープによる研究手法が大学全体の研究にも大いに役立ったこと。嶋田先生から頂いた「セルロースの酵素分解の研究」が生涯の研究テーマとなり、セルラーゼが持つ糖質結合モジュールの特性研究や、糖質加水分解酵素ファミリーGH44の構造決定にもつながったこと。さらに、三重大学純米大吟醸梅酒「紅翠」、三重大学魚醬「鮭びしお」などブランド商品を開発するも、商品化の難しいことも経験されたこと。最後に、AIの文献検索能力はすぐ、使いこなせる能力の有無で研究成果が左右される。小さいころからプログラミング言語

を経験している現代は大いに期待できる。ただ、使うデータを選別し、結果を判断するのは所詮人だけのオチがありました。先生が長年取り組まれてきた研究への思いを熱く語られ、質疑応答も入れて一時の間半にも及ぶ講演でした。菅原さんの講演は、「地域デビューの薦め」。大学は生物化学研究室で、島林教授、高橋助教、田口助手の指導の下、卒業論文は「植物のビタミンB群合成経路について」。外資系のファイザー（株）に就職された。退職後は、人生設計（剣道の再開、ゴルフ、ギター演奏、走ること、社会貢献）、退職金の使途も決め、実践されてきた。現在、社会貢献として、民児協の地区会長、地区スポーツ協会の役員、学童登下校の見守りボランティアなどをやられています。今後は、成人後見人活動に参加するとのこと。地域デビューのメリッ

トとして、①新しい出会いがあり、住んでいる場所が好きになる、②認知症の予防になる、③様々な情報が入り、地域の状況がわかる、を挙げ、女性より男性は短命、喫煙者ほどより短命、女子は一人になるとストレスフリーになり元気になるとのこと。今も、一人暮らしの高齢者に対する毎月の食事会、ギター演奏会を通算一〇〇回開催しており、五、七月にも五回企画しているとのこと。精神的に活動する菅原さんのエネルギーを感じさせる講演でした。

講演会の後、集合写真を撮影し、別所委員（大26回）の進行のもと、益々お元気であられる鈴木潔（大9回）の乾杯の発声で、懇親会が始まりました。

懇親会は三重テラス・レストランの配慮で、同じ会場でレストランからのケータリングで行いました。料理のテーマは、「三重の食材と地酒を堪能」とし、三重県産の魚、肉、野菜による郷土料理、酒も地酒の気配りの設えでした。本当にご馳走様でした。

殆どの方に近況報告をいただき、交流・歓談の二時間の予定はあっという間で、宴もたけなわでしたが、ボランティア活動の一端を紹介する形で、菅原さんのギターの演奏で懐かしの歌、ふるさと、青葉城恋唄、花の三曲を斉唱しました。続いて酒井委員の音頭で、三翠応援歌を豪唱した後、平田委員の締めで第一八回の総会・講演会・懇親会を終えました。

来年は交流会（第一〇回）の年ですが、三、四月に開催に向けて準備を進めていきますので、多くの方の参加をお願いします。

最後に、出席者（☆は支部委員）を紹介させていただきます。

木村幸信（25）、菊田修一（30）、鈴木潔（09）、亀山幸輝（12）、岡崎直人（14）、高瀬敏（18）、吉田吉明（18）、浅尾由一（19）、東海裕作（19）、西出祐次（19）、田中俊一（20）、平田友良（20）、神戸千幸（21）、中島亨（22）、菅原博（26）、津島直人（26）、別所明☆（26）、宮野文子（26）、蛭雄政美☆（27）、板倉正司（30）、佐藤郁夫（30）、酒井和好☆（34）、堀之内誠（34）、西野寿々香（73）

大学第三三期 同窓会開催

西本和実（大33）



クラス担任だった柏村先生も、手作りのパイを持参され、駆けつけてくださいました。

卒業以来、四十年ぶりに再会したメンバーもいて、二時間の予定でしたが、参加者が近況を報告して盛り上がる間に、あつという間に時間がたちました。お開きとなった後、数名と柏村先生で、大学を久しぶりに訪問し、農薬化学研究室の流れをくむ生理活性・創薬化学研究室の稲垣先生にお目にかかったり、六

賛助金ご協力をお願い

今回、賛助金の振込用紙を本紙と同時にお送りさせていただきました。平成25年総会で、会報「三翠化学」発行の都度賛助金のお願いを行うと決定されて以来、会員の皆さまには多大なるご協力をいただき、平成29年度の本紙で、ご協力御礼としばらくはお願いしない方針を進める旨の報告をするまでに財務状況は回復いたしました。以来8年間は、ほぼ毎号で寄付のお願いはしていたものの、切迫したお願いをすることもなく過ごして参りました。

その間一時期途絶えていた3支部への活動援助金の復活、学生と先生方との交流会への援助などに定常的に支出することも可能となり、同窓会活動としてはわずかながらでも活性化の方向に動き出したものと思われる。

ただ、継続発行を守り続けている本紙の発行、および配布に要する経費は上昇の一途をたどっており、昨年度はついに40万円を超える支出となりました。

対して収入側は、再度の大学の改組によって農芸化学分野がほぼ元に戻ったため、卒業生のうち同窓会入会者分の会費はスムーズに入金されるようになりました。ところが、かつてはほぼ100%の同窓会入会率であったものが、50%を切る事態になっており、当初の楽観的見込みを大幅に下回り、新入会員の会費を以て会報印刷費に充てることは困難な状況となっています。

現状は、三翠化学会の活性化のために行う活動は今後も活発化したい反面、節約に励むべきという板挟み状態にあるといえます。

現在の繰り越し残高は、170万円ほどであり、前記支出項目を継続していくとすれば、年間支出額は70万円程度と見込んでいますので、仮に繰越金取り崩しでの運営となると、最短今後2号の会報を以て資金が不足するという事態になりかねません。今後の収入増の方策としては、会報発行事業に対して親会（三翠同窓会）からの援助を要求すること、同窓会入会を地道に呼びかけ、新入会員の増加を図っていくことなどが考えられ、鋭意努力する所存ですが、いずれも確実性と即応性には難があります。

つきましては、大変厚かましいのですが会員の皆さまに再度賛助金のご協力をお願いいたしたく振込用紙を同封させていただきました。なにとぞ温かいご支援のほどお願い申し上げます。

研究室対抗スポーツ大会行われる

毎年恒例となった研究室対抗スポーツ大会が、10月10日に三重大大学第1体育館にて18時から開催されました。昨年優勝した食品発酵学研究室のメンバーを中心に運営が行われ、今年の競技種目はドッジビーでした。

まず予選リーグを行い、その後、上位4チームによる決勝トーナメントで順位を決定しました。

その結果、今年の優勝は栄養化学研究室が獲得しました。（勝崎 大36 記）



第二四回三翠化学会 関西支部交流会報告

西本和実（大33）



昭和五九年に第一回総会が開催された三翠化学会関西支部は、平成一三年からは名称を関西支部総会から関西支部交流会に変更し、それ以来毎年開催を重ねてきました。途中、コロナ禍の影響で、令和二、三年は開催を見送りましたが、令和四年に再開しました。

第二四回支部交流会は、令和六年一月二日、ご来賓として三重大学生物資源学部生理活性・創薬化学研究教授の稲垣稯先生、准教授の増田裕一先生、三翠化学会会長の木村幸信氏（大25）にご出席を賜り、今回もホテルクライトン新大阪にて開催いたしました。

第一部は関西支部総会です。昨年より支部の幹事に加わられた北村幹事（大30）の司会で、冒頭に物故者に黙祷を捧げました。次いで総会に移り、まず三翠化学会会長の木村氏よりご挨拶を賜り、三翠化学会本部の現状と各支部の活動状況報告及び、本部おひぎ元の支部活動の活性化のため、旧三重県支部と旧東海支部を統合改組し、新東海支部として発足したことの報告があり、引き続き三翠化学会の活動に、ご支援・ご協力をお願いしたいとお話しを伺いました。その後、伊藤支部長（大21）より、令和五、六年度の活動報告、西本会計（大33）の会計報告、古橋会計監査（大19）による会計監査報告が行われ、いずれも満場一致で承認されました。また、今回は、二年毎の支部役員

の改選にあたっており、七年間重責を果たされた伊藤支部長がこの総会をもって勇退され、新たに、浅井幹事（大27）が新支部長に選出されました。伊藤支部長には長きにわたって支部の中心となつて活動にご尽力いただいた功績に感謝申し上げるとともに、今後も幹事として、関西支部の活動へのご協力を頂く予定で

す。また、浅井新支部長には、これから関西支部の活動の中心となり、先頭に立つていただくことになり

ます。幹事一同、新支部長をサポートし、交流会のさらなる活性化に向け、気持ちを新たに役目を果たしてまいります。

第二部は恒例の談話会です。まず、稲垣先生より、二〇二四年発足の、生物資源学部の新学部体制のご説明があり、その後、先生のチームが取り組まれている、バクテリオファージのX174による宿主菌認識機構の解明の研究（どのようにしてファージのスパイクタンパクが大腸菌のどの部位を認識し、感染するか？）が、医薬品の皮膚透過性の研究（どのようにすれば、医薬品がより皮膚に浸透しやすく、かつ効果を発揮しやすくなるか？）についてのお話を、また、増田先生からは、天然物有機化学を基盤とした創薬研究として、主に環状ペプチドを研究対象として、環状ペプチドの化学構造・立体構造・生物活性の関係の解明、分子設計、有機合成、活性試験、ペプチドの三次元構造解析を行い、より役に立つ薬の開発を目指す（創薬）内容について、お話をうかがいました。

第三部は懇親会です。田宮幹事（大36）の司会で、大北明氏（大16）に乾杯のご発声をお願いし、懇親会は開始となりました。いつものように参加者一同、昔話で盛り上がり、お互いの近況を報告したりと、和気あいあいとした雰囲気です。懇親会では、厚く御礼申し上げます。

授、増田裕一（生物資源学部准教授、木村幸信（三翠化学会会長、大25）、谷中昭（大13）、大北明（大16）、古橋雅巳（大19）、伊藤哲雄（大21）、中北隆也（大27）、岩田将司（大29）、小川悦代（大30）、北村智（大30）、田宮敏昌（大36）、加藤毅（大39）、富田剛史（大40）、川上厚子（大48）、西本和実（大33）（敬称略）

大27のクラス会は二七年ぶり！

早川享志（大27）

大27のクラス会は、平成一〇年（この時点で卒業後一九年ぶり）以来である。前回は、クラス担任の高橋先生の退官記念祝賀会でクラス会の機運が高まり開催に至ったが、高橋先生がお亡くなりになった後は、クラス会は遠のいていた。こうした中、五名の同窓生が鬼籍に入り（都築、鳥居（小島）、堀田、満島、森育久の諸氏）、皆が元気なうちにクラス会を、という声を多く聞くようになった。しかし、それぞれが多忙な時期もあり、時が過ぎて

行った。こうした状況の中、この三月末で私が定年後の第二の職場を退職し時間的余裕ができたこと、再度クラス会開催の声が高まったことから、中北氏に相談し、開催することとした。しかし、前回から二七年も経つていて、以前の住所録が役に立たない。何とか手を尽くして三〇名の卒業生のうち、二名のメールアドレスと携帯番号を手で集めた。会場を確保し、出欠をとったところ、一四名が参加できることとなった。今回は、平日の開催としたこ

ともあり、仕事、介護、その他都合で、七名（浅井（倉田）、小川、栗山、酒井、寺崎、服部、山北の諸氏）の参加がかなわなかったのは残念であった。クラス会は、六月二四日火曜日二時三〇より愛知県蟹江町の丸河料理店で行った。最寄りの近鉄蟹江駅には、一一時三〇頃から上下線から三々五々降り立ち、改札付近でミニクラス会が始まった。それぞれ学生時代の特徴はそのまゝの風貌であるので、誰かはすぐにわかつた。

開始時間には出席予定者全員が会場に集まり、幹事による開会、乾杯ののち、歓談に入った。この会場は、宴会場としてゆつたりとした空間が確保できるので、久しぶりの親睦には都合が良かった。順に料理が運ばれ、アルコールも進むと席を移動し、あちこちで話題の花が咲いた。最後に「参加者に近況報告をお願いした。学生時代と変わらぬ人間関係が続いていることや、二七年間のうちに様々な経験をし、それぞれの人生を歩んできたことを実感できる時間であった。会場の一時延長使用を了解いただいていたものの、それをも超えてしまつた。



た。同窓生の熱気に店の方もあきめ顔であった。その後、卓を寄せて、集合写真を撮ってもらった。参加者（敬称略）は、写真の前

列左より蛭巻、藤田、笠置、長谷川、桑山、二列目左より中矢、上野、今西、最後列左より早川、河村、森亮夫、浅井、中北、青木の

一四名である。都合により出席できなかった方には、次回お会いしたい。また、連絡のつかなかった、百済勝彦、鈴木伸一、藤野義久の諸氏

の消息を知っている方は、同窓会等を通じて早川に連絡を頂きたい。今回、幹事を務めたが、変わらぬ絆を感じることができた楽しい会になったよかったと安堵している。次回のクラス会についての相談は、時間オーバーでできなかった。泊りのクラス会をとの声もあり、開催について担当の相談をしつつ次回の開催につなげたい。次回も多くの方に参加頂くことを楽しみにしております。

旧生協食堂、音楽系クラブハウスとして生まれ変わる



新しい食堂が完成するまで使用されていた旧食堂が、このたび新たにクラブハウスとして生まれ変わりました。これまで教育学部の音楽棟を利用していた音楽系クラブは、食堂の移転に伴い、この新クラブハウスを拠点とする

ことになりました。さらに、クラブハウス前には屋外ステージも整備され、より充実した活動環境が整いました。

（勝崎 大36 記）

●令和6年度 卒業生就職・進路先●

株式会社アドマテックス	新宮市役所	ナガセヴィータ株式会社	ホーユー株式会社
アピ株式会社	住友理工株式会社	名古屋市役所	マルホ株式会社
イーピーエス株式会社	セイコーエプソン株式会社	日進乳業株式会社	一般財団法人三重県環境保全事業団
インフォテック株式会社	太平化学産業株式会社	株式会社ニデック	三重県教育委員会
愛媛県庁	高田香料株式会社	ニプロファーマ株式会社	御木本製薬株式会社
エッチ・エム・イー	株式会社中電シーティーアイ	日本食品化工株式会社	株式会社名南経営ソリューションズ
奥野製薬工業株式会社	中部電力ミライズ株式会社	一般財団法人日本品質保証機構	株式会社メディサイエンスプランニング
花王株式会社	東京都庁	パナソニック株式会社	ヤマモリ株式会社
株式会社コモ	株式会社トーマコーポレーション	物産フードサイエンス株式会社	JAPAN TESTING LABORATORIES株式会社
四国電力株式会社	豊田通商システムズ株式会社	豊国製油株式会社	

大学第九回 農芸化学卒業同級会報告の件

鈴木 潔 (大 9)

コロナで中止していた第九回農芸化学卒業生の同級会が、去る令和六年一〇月二日、名古屋市中東区の「宝善亭」で、昼食会形式で行われ、米寿を迎えている人もいる卒業生八人と奥様一人計九人が、出席したので報告いたします。名古屋市の名所徳川園、徳川美術館に隣接した会場であったが、徳川園を見学したのは三人、美術館は〇人で、全体的に足腰が弱って、この会に出るのも「この会だけは」と苦勞して出席した人もいた。

最初に、この会に出席できたことを祝ってビールで乾杯した。酒量は少なくない、グラス三分の一とか、ノンアルコールでとかの人もいた。しかし、食欲は皆旺盛で、ポリウムは有ったが、大部分の人は完食であった。

話題は、現在の自分の体の状態と病気の報告が各人からあった。全体に足腰が弱ったという人が多かった。しかし、朝五時半に起床して隔日で五km歩いていく、ボッチャを月三回楽しんでいく、という健康者もいた。また、フレールから立ち直り、日経と読売の二紙の全面に目を通し、気分

びと水筒を持参した。伊勢湾台風の救援物資が山積みになっているのを見て、見かねて、有志を集めてボランティアで整理を行い一週間くらいかかった、市長からはそのようなことを頼んだ覚えはないと叱られた。恒例の農学全学部による「大学」松坂間、駅伝大会に三〇人しかいないのに二チーム出場し、走者と自転車で着替えを運ぶサポーターだけで応援者もいない状態で頑張ったこともあった。など、今になって初めて話せるような話題も出て大いに盛り上がった。

食品化学研究室同門会 津開催のご報告

江南恵子 (大 45 回)



2025 年 8 月 10 日、三重県津市にて食品化学研究室の有志同門会を開催しました。久松眞先生 (院 8 回)、三島准教授 (院 29 回) にもご出席いただき、総勢 10 名ほどが集まりました。久松先生からは三重大の研究室の歩みや山田哲也先生の功績についてお話しいただき、学生時代の思い出や近況などを和やかな雰囲気の中で語り合いました。

二次会は、食品化学研究室らしい大盛り上がりのカラオケ大会。翌朝早くから津でお店の仕事があった方、新幹線の運休で津に辿り着けなかった方、三重大に入学したお子さんの下宿先に泊まった方など、それぞれのエピソードが新たな「伝説」として加わり、学生時代から変わらぬ研究室の空気を再確認するひとときとなりました。

この同門会は毎年開催していたわけではありません。2024 年に 46 回の布目君が遠くに旅立ったことをきっかけに、「会えるうちに集まろう」という思いが強まりました。院 29 回の玉置さんが発起人となり、昨年名古屋で 20 年ぶりに再会を果たしました。

布目君は、研究室での飲み会や旅行など、楽しい思い出の中に必ずいる存在でした。彼の明るさと、場を和ませる絶妙なツッコミは、いつも周囲を笑顔にしてくれました。個人的には、お子さんが生まれた時に会いに行ったり、私の近況を気にかけてくれたりと、卒業後も交流を続けていました。彼の早すぎる旅立ちは大きな衝撃でしたが、彼と過ごした時間は今も私たちの心に深く刻まれています。

50 代を迎え、子育ても一段落し、自分の人生を振り返る時期に差しかった私たちにとって、学生時代の記憶を共有し語り合う場として、この同門会をこれからも続けていきたいと願っています。

Facebook はじめました。

三翠化学会の情報は以下のサイトからも得られます。また、問い合わせはメールでも可能です。

- ◆三翠化学会ホームページ：<https://wps.cc.mie-u.ac.jp/sansuikagaku/>
- ◆三翠化学会 Facebook：https://www.facebook.com/sansuikagaku/?locale=ja_JP
- ◆三翠化学 e-mail：sns1kgk@gmail.com

定年退職のご挨拶

昭和 53 年 4 月 (1978 年)、三重大大学農学部農芸化学コースの 1 年生として三重大大学に入学してから、早いもので 47 年の月日が経ちました。大学院修了後は大関株式会社に就職し、その後、三重大大学遺伝子実験施設に採用されました。学部への異動により、生物資源学部資源循環学科、大学院地域イノベーション学研究科、生物圏生命化学科と所属が変化しましたが、「食品発酵学教育研究分野」の研究室にて、今年 3 月末をもって定年退職を迎えました。松嶋欽一先生、嶋田協先生のもとで学んだ微生物学や酵素化学を基礎に、遺伝子組換え技術を取り入れた微生物学や発酵の研究に取り組めたことは、私にとって大きな幸せでした。現在は、他大学で非常勤講師を務める傍ら、以前の研究室で研究員として、継続中の共同研究を細々と続けております。家で過ごす時間も増え、好きな野球をファームの試合からじっくり観戦できるようになり、家庭菜園にも力を入れております。これまで、三翠化学会の先輩方、同期の皆様、後輩の方々に多大なるご指導・ご支援をいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。(荻田修一 (大 30 回))



遺伝子実験施設時代の関連する卒業生



資源循環学科時代の卒業生



生物圏生命化学科時代の卒業生

令和七年二月二八日 荻田修一教授の最終講義及び退職記念パーティー行われました。

北村さんによる学生時代の写真の紹介などもあり、学生時代の様子から、退職に至るまでの変遷や、糖質結合モジュールに関する研究、微生物菌叢に関する研究や、三重大大学の酒造りなどの取り組みなどが紹介されました。また大学教育改革としての高等教育関係や伊賀研究拠点長の仕事なども紹介されました。最終講義の後、退職記念のパーティーが生協食堂で行われました。卒業生など多くが集まり、当時の研究室生活を振り返りながら盛り上がり

荻田修一教授 最終講義及び退職記念パーティー

食品発酵学研究室 梅川碧里

令和 6 年度 卒論タイトル (紀要掲載可分のみ)

- ・レトルト米飯の加水と加熱条件の違いによる老化度の比較
- ・*Halobacillus halophilus* 由来 GH161 酵素の安定性に関する研究
- ・イネの遺伝子欠損変異体 sqd2.1sqd2.2 二重変異体を用いた GlcADG の生合成に関する研究
- ・昆布だしのマルチバンド分光情報に及ぼす抽出用水の影響
- ・*Clostridium paraputrificum* がもつキチン分解能における主要キチナーゼの分子遺伝学的な機能解析
- ・大腸菌 K-12 株のリポ多糖外部コア糖鎖を模倣した 部分構造三糖とその類縁体の合成に関する研究
- ・小豆の加熱処理による機能性成分への影響の検討
- ・小豆抽出物の成分分析および機能性の探索
- ・ダイズに含まれる γ -oryzanol 類縁体についての研究
- ・市販の振とう培養機に対応した微生物熱測定装置の開発
- ・低分子化合物を用いた TRPV1 活性化要因の解明
- ・*Vibrio sp.* 10N 由来ウルバンリアーゼ VbUly24A および脱硫酸酵素 VbSulf の発現系の構築
- ・同一 CBM を持つ酵素間の相乗作用について
- ・*Salmonella Typhimurium* TV119 株の非還元末端に N-アセチルグルコサミンを有する LPS 部分構造三糖の合成法の研究
- ・*Halobacillus halophilus* の糖質関連酵素の安定性に関する研究
- ・親水性薬剤 Acyclovir の皮膚透過性向上法の探索と皮膚透過性評価および皮膚透過機構の解明
- ・EGCg による細胞融合作用における作用機序の解明
- ・栄養膜巨細胞ゲノムのコピー数制御と DNA 複製タイミングの関係解明
- ・高周波誘電加熱を併用した真空凍結乾燥・殺菌特性の把握
- ・糖質結合モジュールの異なる GH5 エンドグルカナーゼの相互作用と不溶性基質分解に与える影響
- ・DNA 損傷誘導性の細胞周期停止から逸脱した細胞における染色体異常パターンの解明
- ・抗菌環状ペプチド curacomycin を構成するアミノ酸の安定同位体標識
- ・キャピラリー電気泳動法を用いた果汁酸度測定手法の検討
- ・*Paenibacillus xylanoclasticus* TW1 株由来 β -グルコシダーゼの特性解析
- ・塩化銅や傷害によって誘導されるソルガムの代謝物に関する研究
- ・セルロース分解性嫌気性細菌 *Ruminiclostridium josui* の制限酵素遺伝子 Rjoi 遺伝子の 特殊な翻訳開始コドンに関する研究
- ・レトルト米飯の製造条件による老化進行度の検討
- ・糖鎖付加ヘスペレチンの血小板凝集抑制作用の検討
- ・抗菌環状ペプチド curacomycin の鏡像異性体の合成研究
- ・アミド窒素に光分解性保護基を導入した PF1171F の合成
- ・発酵可能な糖生産のための褐藻類の酵素糖化の検討
- ・縮合反応によるプリメベロースの合成
- ・イロハモミジ葉熱水抽出物に含まれる抗酸化物質の単離と同定
- ・ブリアラの血小板凝集抑制作用の検討
- ・レモンガラスに含まれる骨格筋細胞における抗細胞老化物質の探索
- ・ユズの異なる抽出法による香りを中心とした成分比較
- ・ヘミメチル化 DNA による DNA 損傷誘発モデルの検証
- ・ジギトニンを用いた特殊ヌクレオチドの HAP1 細胞への導入